

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02319

研究課題名(和文) 冷戦期の「日米合作映画」における総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of "U.S.-Japan Co-productions" in the Cold War Era

研究代表者

志村 三代子 (SHIMURA, Miyoko)

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号：20409733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「日米合作映画」の中に表れた日本人の映画スターの海外進出に注目し、その仔細を探ることで、占領期～1950年代の米国政府が主導する冷戦下のハリウッド映画における効用及び日本のコンテンツ産業の源流を明らかにした。これらの映画に関係した映画人のインタビューを報告書にまとめ、海兵隊協力沖縄戦映画『太陽は撃てない』の製作事情に関する論考、海兵隊協力沖縄ロケ地映画『戦場よ永遠に』(1960年)についての論考を発表し、また『戦場よ永遠に』についてはロケ地の沖縄において、先述した仲地氏をゲストに一般の観客を招いて上映会を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで研究されてこなかった占領期とポスト占領期の「日米合作映画」の特徴を分析することで、戦後の日本映画がいかに撮影技法などの技術的側面だけではなく、米軍の直接的/間接的影響を受けていたことが、明らかになった。さらに、当時の関係者に聞き取り調査を行い、戦後初めて沖縄ロケを実施した『戦場よ永遠に』の一般向けの上映会を行い、この作品について沖縄の人々の関心を高めたことは、今後の日米関係を見据える上でも意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the overseas expansion of Japanese film stars as manifested in "Japan-U.S. co-production films" and explores their details to clarify their utility in Hollywood films during the Cold War led by the U.S. government during the Occupation period and the 1950s. The report includes interviews with filmmakers involved in these films, a discussion of the circumstances surrounding the production of the Marine Corps cooperative film and a discussion of the Marine Corps cooperative Okinawa location film "Hell to Eternity" (1960).

研究分野：映画史

キーワード：日米関係 冷戦 占領期 日本映画 アメリカ映画 映画スター

1. 研究開始当初の背景

アメリカ映画が日本映画に与えた影響を考察したこれまでの研究では、「古典的ハリウッド映画」と呼ばれる、アメリカ映画の撮影技法を中心とした映画の文法、あるいは西部劇、コメディ（ミュージカル）、フィルム・ノワール、ホラー、SFなどのジャンル、そして映画スターのファッションなどがいかにして日本映画に伝播し、個々の監督とその作品に影響を与えたのかについて考察するものであった。代表的なものとしてあげられるのは、山本喜久男『日本映画における外国映画の影響 比較映画史研究』（1997年、早稲田大学出版会）、岩本憲児『日本映画とモダニズム 1920-1930』（1991年、リプロポート）、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ『ニッポン・モダン 日本映画 1920・30年代』（2009年、名古屋大学出版会）などである。これらの研究は、小津安二郎のような「日本的」とされた映画作家が、自らのスタイルを確立する以前の作品では、アメリカ映画のスタイルを貪欲に吸収していったことが作品分析とともに検証されている。このように、日本映画は草創期からアメリカ映画の影響を受けていたことが明らかであるが、戦後は、日米開戦に伴う外国映画の輸入禁止から一変し、夥しい数のアメリカ映画が公開されることになる。占領期の日本映画界はGHQの指導のもとで新たな出発を強いられるが、占領期の映画研究の中でも最も重要なものは、GHQの「検閲」が日本映画に及ぼした影響を詳らかにした、平野共余子の『天皇と接吻 アメリカ占領下の日本映画検閲』（1998年、草思社）である。現在は、平野の著作を受けて占領期の日本映画に関する研究が盛んであるが、本研究の狙いは、それらとは違い、日本映画がアメリカ映画と「協働」し、互いの技術や製作資金、映画俳優などを動員して公開された「日米合作映画」に注目することである。「日米合作映画」の映像分析とその製作過程を検証することは、当時のアメリカが抱いた「日本」に対するイメージを再考し、特に沖縄と日系というこれまで看過されてきた側面と、単にアメリカに強要されただけではない、占領期における双方向の文化的資産である映画について新たな視点を獲得することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、占領期から1950年代に製作された「日米合作映画」の分析を通して、当時の日本とアメリカがいかなる相互補完的關係にあったのか、とりわけアメリカ統治下の沖縄と日系人の問題に着目することによって、冷戦下のアメリカ政府が想定した東アジアにおける日本の役割を多角的に解明することである。さらに、「日米合作映画」の中で描かれた、山口淑子（李香蘭）をはじめとする日本人の映画スターの海外進出に注目し、その仔細を探ることで、占領期～1950年代の米国政府が主導する冷戦下のハリウッド映画における効用及び日本のコンテンツ産業の源流を明らかにする。また、映像作品の分析のみならず、日米それぞれの映画界と政府間の交渉が記録された資料を精査し、関係者インタビューを行うことによって、占領期～1950年代の映像メディアから見た、日本に関するアメリカの文化戦略を総合的に解明する。

3. 研究の方法

以下の4点があげられる。

(1) 「日米合作映画」計 18 作品の映像分析 (表参照)

占領期～1950年代の日米合作映画一覧				
公開年	タイトル	製作会社	監督	主演
1951	『東京ファイル212』	ブレイクストーン・プロ/東日興行	ダリル・スチュワート・マックグワン	ロバート・ベイトン、フローレンス・マリー
1951	『運命』	ブレイクストーン・プロ/東宝	George P. Breakston/C. Ray Stah	マーサ・ハイヤー、パイロン・ミッキー
1951	『二世部隊』	MGM/大映	ロバート・ビロッシュ	ヴァン・ジョンソン、レーン・ナカノ
1952	『芸者屋の一夜』	ブレイクストーン・プロ/東映	レイ・スタール	Archer MacDonald, Steve Forrest
1952	『いついつまでも』	大映	ポール・スローン	クリス・ドレイク、木村三津子
1952	『東は東』	20世紀フォックス	キング・ヴィダー	シャーリー・ヤマグチ、ドン・テイラー、レーン・ナカノ
1953	『アナタハン』	大和プロダクション	ジョセフ・フォン・スタンバーグ	根岸明美、中山昭二
1955	『東京暗黒街 竹の家』	20世紀フォックス	サミュエル・フラー	ロバート・スタック、シャーリー・ヤマグチ
1955	『やさしい狼犬部隊』	コロムビア	ロバート・マーフィ	アルド・レイ、木村三津子
1956	『Navy Wife』	Allied Artists	エドワード・バーンズ	シャーリー・ヤマグチ、ジョン・ベネット、ゲーリー・メリル
1957	『八月十五夜の茶屋』	MGM/大映	ダニエル・マン	マーロン・ブランド、グレン・フォード
1957	『サヨナラ』	Pennebaker Productions	ジョシュア・ローガン	マーロン・ブランド、高美以子
1957	『戦場にかける橋』	コロムビア	デヴィッド・リーン	ウィリアム・ホールデン、アレック・ギネス、早川雪州
1957	『東京特ダネ部隊』	ユニヴァーサル	ジェシー・セップス	オーディ・マーフィ、ジョージ・ネイダー、志摩桂子
1959	『黒船』	20世紀フォックス	ジョン・ヒューストン	ジョン・ウェイン、安藤永子
1960	『戦場より永遠に』	Allied Artists Pictures	フィル・カールソン	ジェフェリー・ハンター、デヴィッド・ジャンセン

(2) 文献資料の丹念な調査

米国公文書館の公文書の分析を基点に、「日米合作映画」に関する日米の新聞、雑誌、原作本の参照、映画会社のプレス、製作ノートなどを調査する。

(3) 関係者インタビュー

生存していると思われる関係者として『サヨナラ』の主演女優・高美衣子氏、ジョージ・タケイ氏、『戦場よ永遠に』のスタッフ、出演者に絞って調査を開始する。

(4) 映画ロケ地の調査

『戦場よ永遠に』の沖縄、サイパンロケ地を中心に訪問する。

4. 研究の成果

本研究では、「日米合作映画」の概要を網羅するために、年代別に抽出した作品の製作過程に注目し、当時のプロダクションノート、プレス、批評などの一次資料を用いてそれらを検証したが、映像分析という従来の映画研究のディシプリン以外にも以下の点に注力した。なぜなら、『戦場よ永遠に』の子役が存命であることを知り、分担者の名嘉山リサ氏とともに子役を務めた仲地清氏を特定できたからである。そのおかげで 2015 年に沖縄県宜野座村で『戦場よ永遠に』の上映を実施することで、一般観客にも当該作品の認知が成功し、本研究の社会的な広がりが確認できた。したがって、本研究では一次資料の渉猟に努めるとともに、フィールドワークを重視し、関係者の特定とインタビュー、ロケ地訪問などを実施し、それらを記録した。また本研究を進めていくなかで、ゴジラなどの日本が生み出したコンテンツが、実は日米双方の影響を受けた産物であった点も実証できた。さらに、「日米合作映画」には正確には該当しないものの、アメリカ映画の影響を多大に受けた、戦後の映画衣装の分野に注目し、とりわけ映画衣装デザイナーとしての森英恵氏の仕事を記録するために、関係者へのインタビューを実現させた。また、一次資料を調査していく中で実現に至らなかった「合作映画」の存在を突き止めた。1961 年に撮影が予定されその後頓挫した『太陽は撃てない』がその実例である。

- (1)関係者インタビューの実施：高美衣子氏（日系人俳優、『サヨナラ』主演）、比嘉松盛氏（『戦場よ永遠に』の監督通訳）、仲地清氏（『戦場よ永遠に』出演者）
- (2)未公開作品の検証：『太陽は撃てない』
- (3)映画衣装の検証（森英恵の役割）：篠田正浩氏（映画監督）、岩下志麻氏（俳優）、司葉子氏（俳優）
- (4)ロケ地の訪問：『戦場よ永遠に』のロケ地（沖縄）、『戦場よ永遠に』（サイパン）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 21
2. 論文標題 幻の海兵隊協力沖縄戦映画『太陽は撃てない』 製作協力体制構築の過程と破綻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 108 - 119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村三代子、名嘉山リサ	4. 巻 87
2. 論文標題 仲地清氏に聴く 『戦場よ永遠に』（1960年）に出演して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 355-364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 12
2. 論文標題 比嘉松盛氏に聴く：『戦場よ永遠に』（1960年）の撮影に参加して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄工業高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 45
2. 論文標題 海兵隊協力映画 米日琉合作映画、宣伝映画としての『戦場よ永遠に』（1960年）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄文化研究	6. 最初と最後の頁 161-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村三代子、北村匡平	4. 巻 84
2. 論文標題 [インタビュー] 篠田正浩監督に聞く 戦後日本映画における衣裳について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 155-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志村三代子、北村匡平	4. 巻 58
2. 論文標題 [インタビュー] 映画女優・岩下志麻に聞く スター女優と衣裳の関係	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 演劇映像	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志村三代子、北村匡平	4. 巻 85
2. 論文標題 [インタビュー] 映画女優・司葉子に聞く スター女優と衣裳の関係	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 287-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 志村三代子
2. 発表標題 松本清張と東宝サラリーマン映画の邂逅 「黒い画集」シリーズを中心に
3. 学会等名 北海道大学映像・現代文化論学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志村三代子
2. 発表標題 Representation of Hawaii in post war Japanese films
3. 学会等名 The International Symposium on Business and Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 miyoko shimura
2. 発表標題 Acceptance of ballet in postwar Japan On Japanese films until the 1960s
3. 学会等名 International Academic Conference on Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 志村三代子
2. 発表標題 冷戦時代の「日米合作映画」 『東京暗黒街 竹の家』(1955)を中心に
3. 学会等名 20世紀メディア研究所
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 幻の沖縄映画『太陽は撃てない』 宮城嗣吉、大映、米政府間での製作構想をめぐって
3. 学会等名 沖縄映画研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志村三代子
2. 発表標題 Emperor and Films Criticisms of Emperor system on Tragedy in Grama island
3. 学会等名 Society Cinema and Media Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 ハリウッド初沖縄口ケ映画『戦場よ永遠に』 「海兵隊協力映画」、「米日琉合作映画」として
3. 学会等名 沖縄映画研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 志村三代子、川崎賢子、土屋礼子、山本武利、鈴木貴宇、吉田則昭、加藤哲郎、白山真理、白土康代、井上祐子、清水あつし、吉本秀子、赤見友子、阪本博志、梅村卓、松田さおり、宜野座菜央見、小林昌樹、谷合佳代子、羽生浩一、芝田正夫、王楽、村山龍、アンニ、藤元直樹、賀茂道子、鴨志田浩、武田珂代子、米濱泰英、黒宮広昭	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文生書院	5. 総ページ数 152
3. 書名 20世紀メディアよもやま話	

1. 著者名 加藤めぐみ、志村三代子、ハウエル・エバンズ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 260
3. 書名 大学的富士山ガイド	

1. 著者名 志村三代子、小川佐和子、川崎公平、木下千花、鷺谷花、渡邊大輔、北村匡平	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 307
3. 書名 リメイク映画の創造力	

1. 著者名 志村三代子、小松和彦、常光徹、佐々木高弘、徳田和夫他19名	4. 発行年 2017年
2. 出版社 せりか書房	5. 総ページ数 499
3. 書名 進化する妖怪文化研究 (妖怪文化叢書)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>沖縄映画研究会 https://sites.google.com/site/okinawacinema/</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	名嘉山 リサ (Nakayama Risa) (80455188)	和光大学・表現学部・准教授 (32688)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------